

平成24年3月期 決算説明会

平成24年5月11日



大林組

免責事項

当資料に記述されている業績予想並びに将来予測は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため実際の業績は、様々な要因の変化により、記述されている将来の見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。また、当資料は、投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

平成24年3月期 決算説明

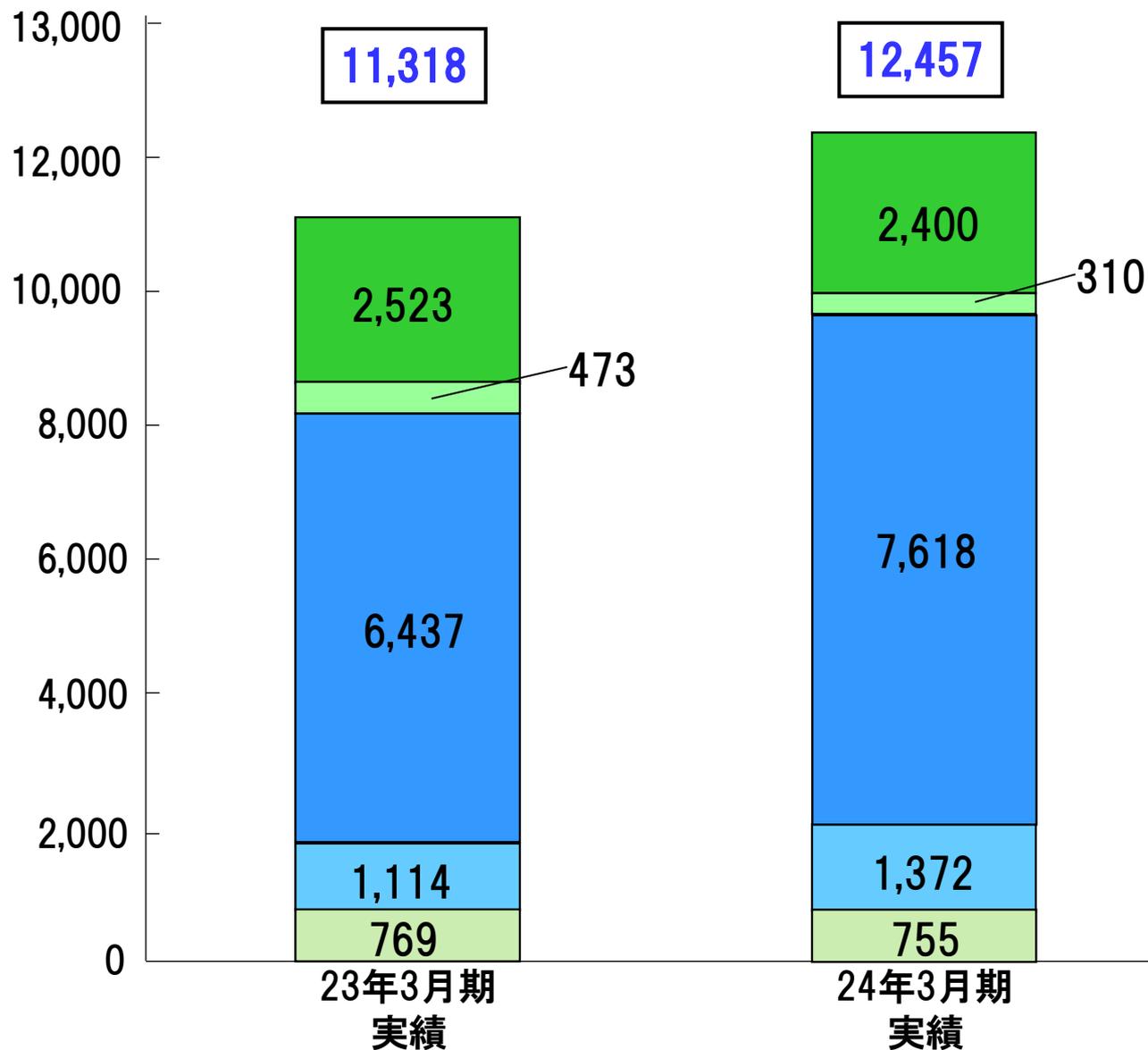


(単位:億円)

	23年3月期	24年3月期	増 減
売 上 高	11,318	12,457	1,139
売 上 総 利 益	997	1,106	109
営 業 利 益	231	311	79
経 常 利 益	222	352	130
当 期 純 利 益	154	51	△102

【連結】セグメント売上高

(億円)



前期比

+1,139億円

国内土木

△123億円 (△4.9%)

海外土木

△162億円 (△34.4%)

国内建築

+1,180億円 (+18.3%)

海外建築

+257億円 (+23.1%)

不動産等

△13億円 (△1.7%)

【連結】セグメント営業利益

OBUYASHI CORPORATION

24年3月期 決算説明会

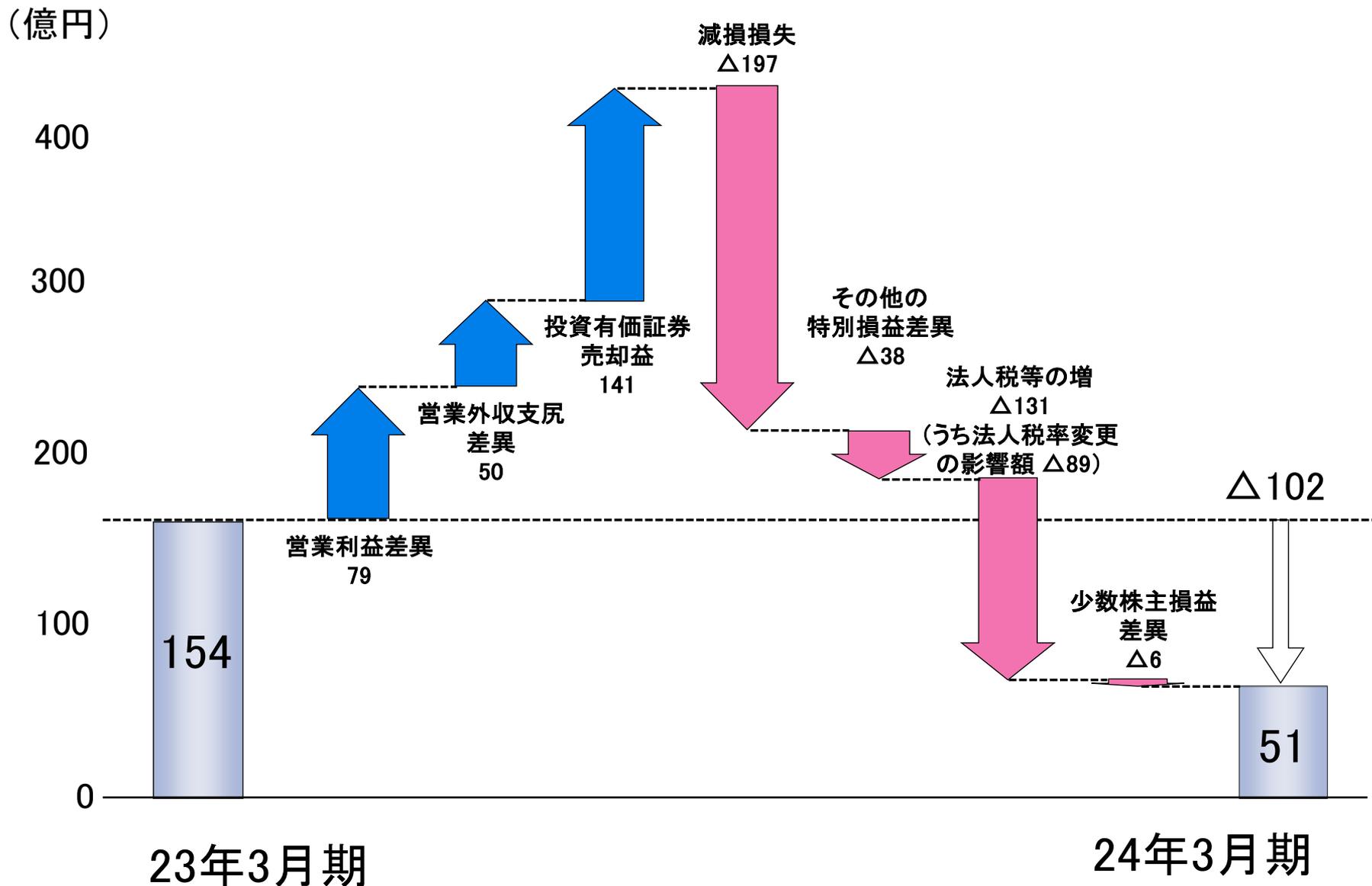
(単位:億円)

		23年3月期		24年3月期		増 減
		利益率		利益率		
建設事業計	国内土木	2.7%	67	1.2%	29	△37
	海外土木	9.2%	43	29.5%	91	48
	国内建築	0.4%	26	1.9%	142	116
	海外建築	0.9%	9	0.8%	11	1
建設事業計		1.4%	146	2.4%	275	128
不動産等		11.1%	85	4.8%	36	△49
合計		2.0%	231	2.5%	311	79

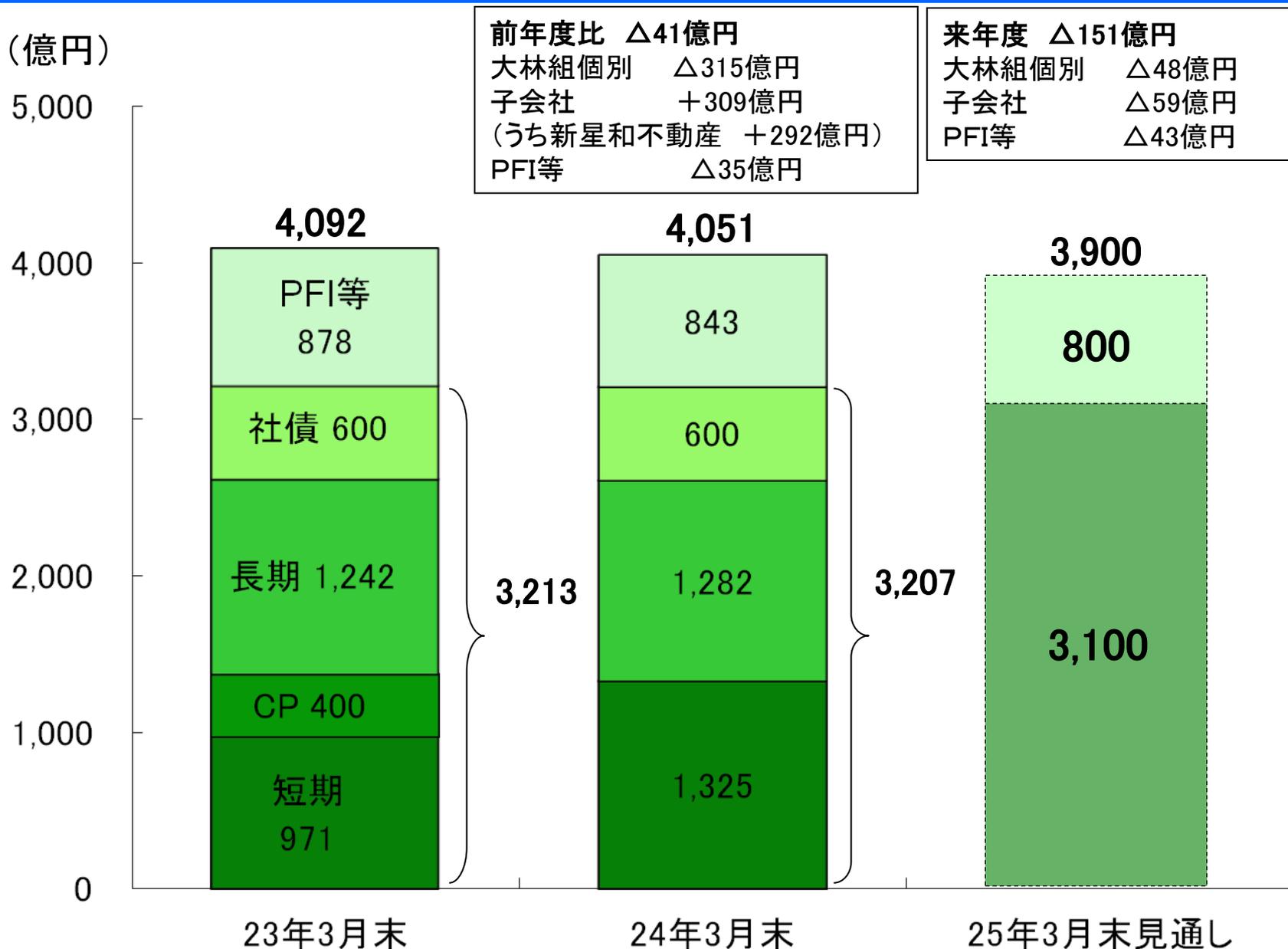
【連結】 当期純利益の増減要因

OBAYASHI CORPORATION

24年3月期 決算説明会



【連結】有利子負債の推移



【連結】 キャッシュ・フロー

(単位:億円)

	23年3月期	24年3月期	増 減
営業キャッシュ・フロー	10	657	646
投資キャッシュ・フロー	△331	△19	312
財務キャッシュ・フロー	106	△489	△595
現金及び現金同等物の 増 減 額	△234	126	361
現金及び現金同等物の 期 末 残 高	1,089	1,216	126

【連結】平成25年3月期業績見通しの概要

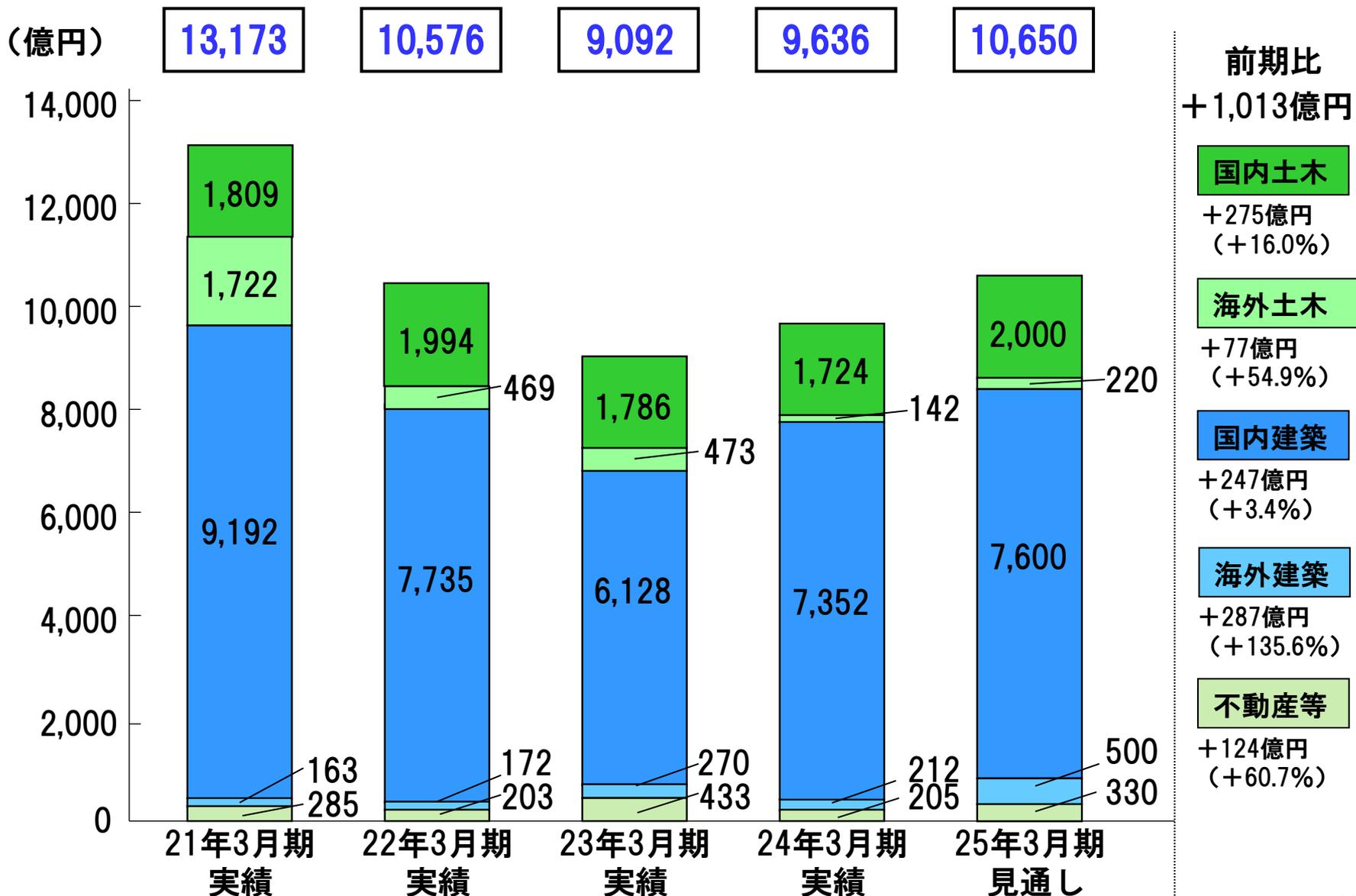
OBAYASHI CORPORATION

24年3月期 決算説明会

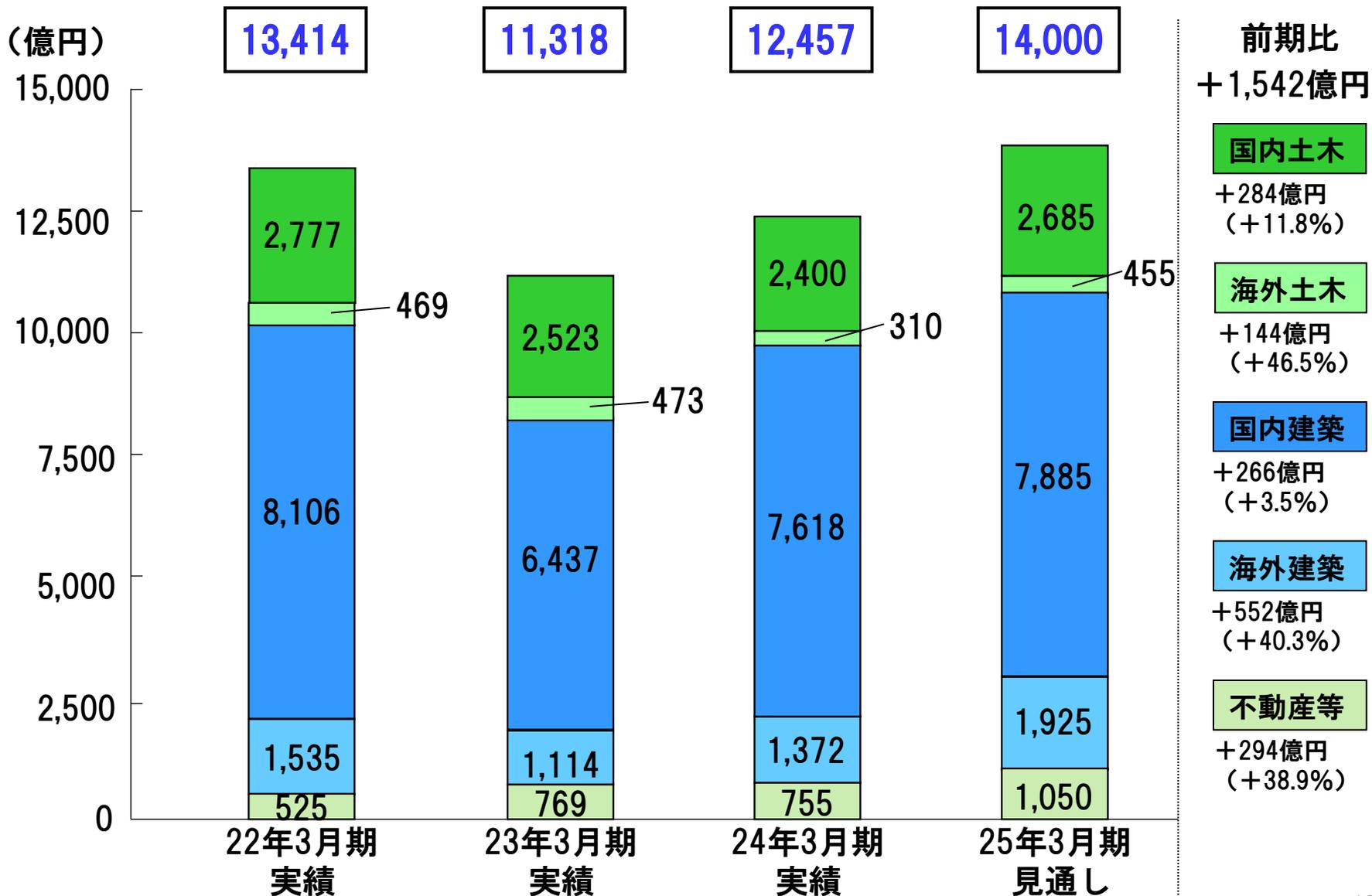
(単位:億円)

	24年3月期 実績	25年3月期 見通し	増 減
売 上 高	12,457	14,000	1,542
売 上 総 利 益	1,106	1,130	23
営 業 利 益	311	340	28
経 常 利 益	352	370	17
当 期 純 利 益	51	110	58

【単体】通期売上高の見通し



【連結】通期売上高の見通し



【連結】セグメント営業利益の見通し

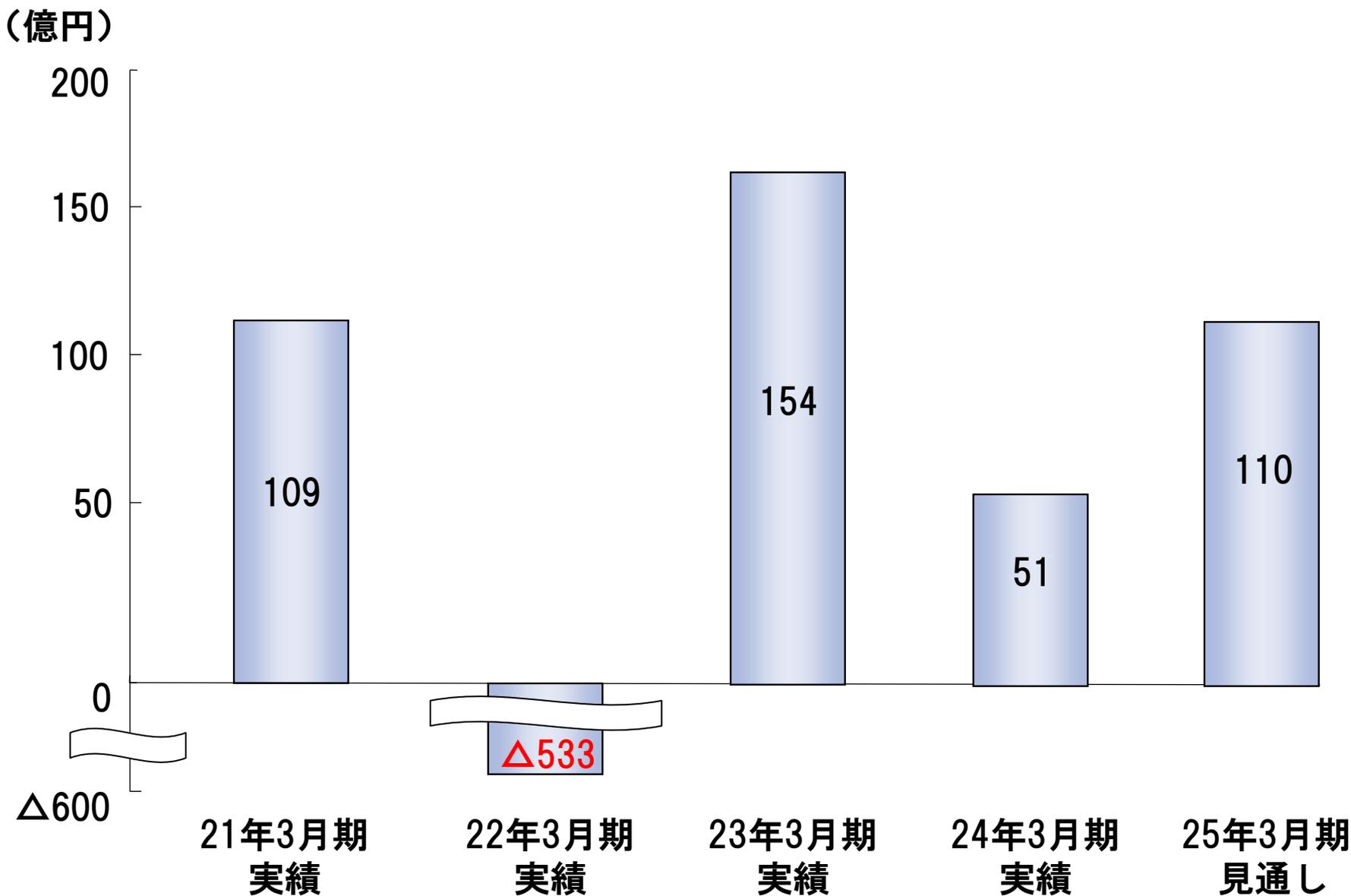
OBAYASHI CORPORATION

24年3月期 決算説明会

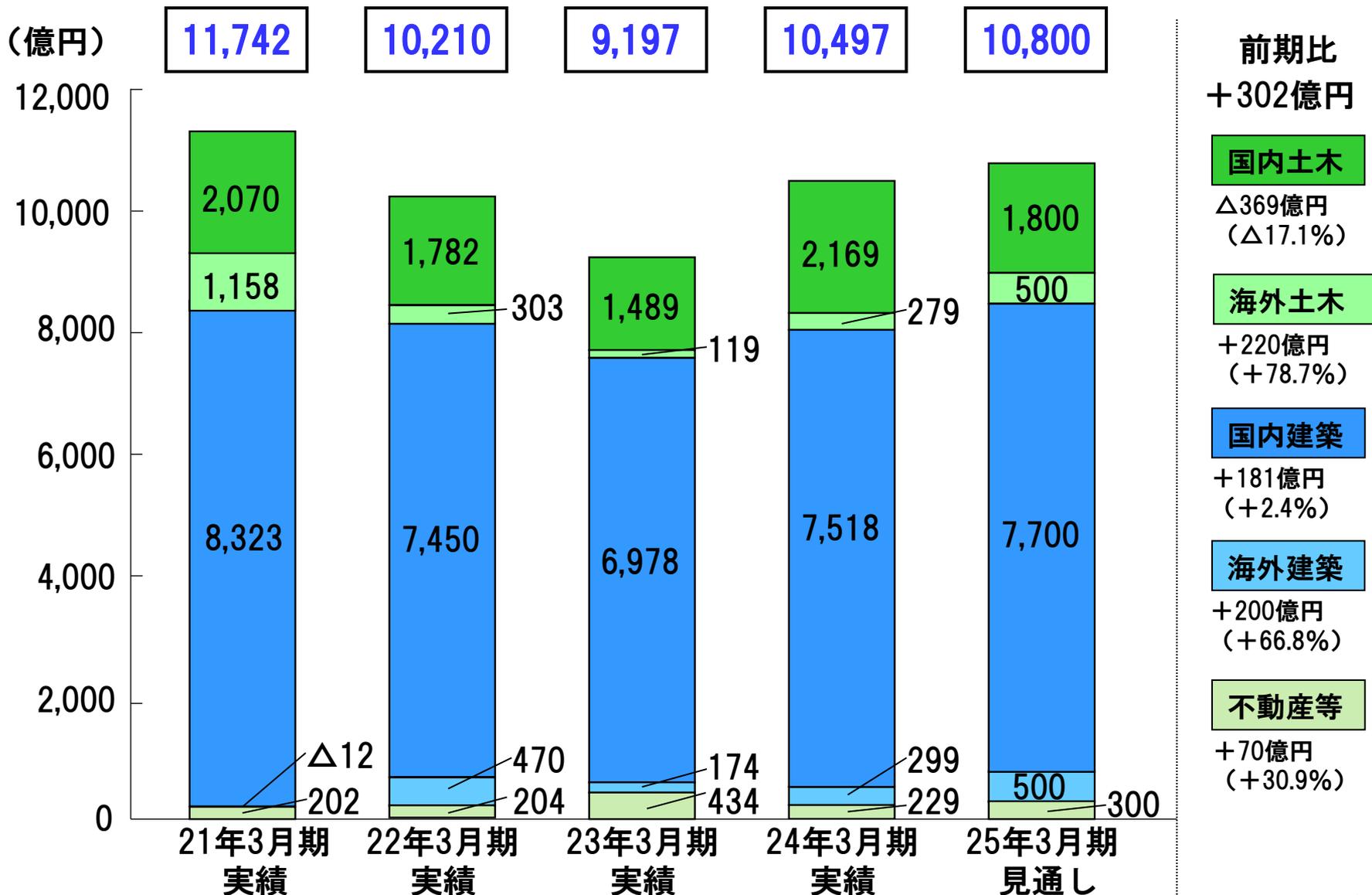
(単位:億円)

		24年3月期		25年3月期		増 減
		利益率		利益率		
建設事業計	国内土木	1.2%	29	3.2%	85	55
	海外土木	29.5%	91	△2.6%	△12	△103
	国内建築	1.9%	142	1.7%	131	△11
	海外建築	0.8%	11	1.8%	34	22
建設事業計		2.4%	275	1.8%	238	△37
不動産等		4.8%	36	9.7%	102	65
合計		2.5%	311	2.4%	340	28

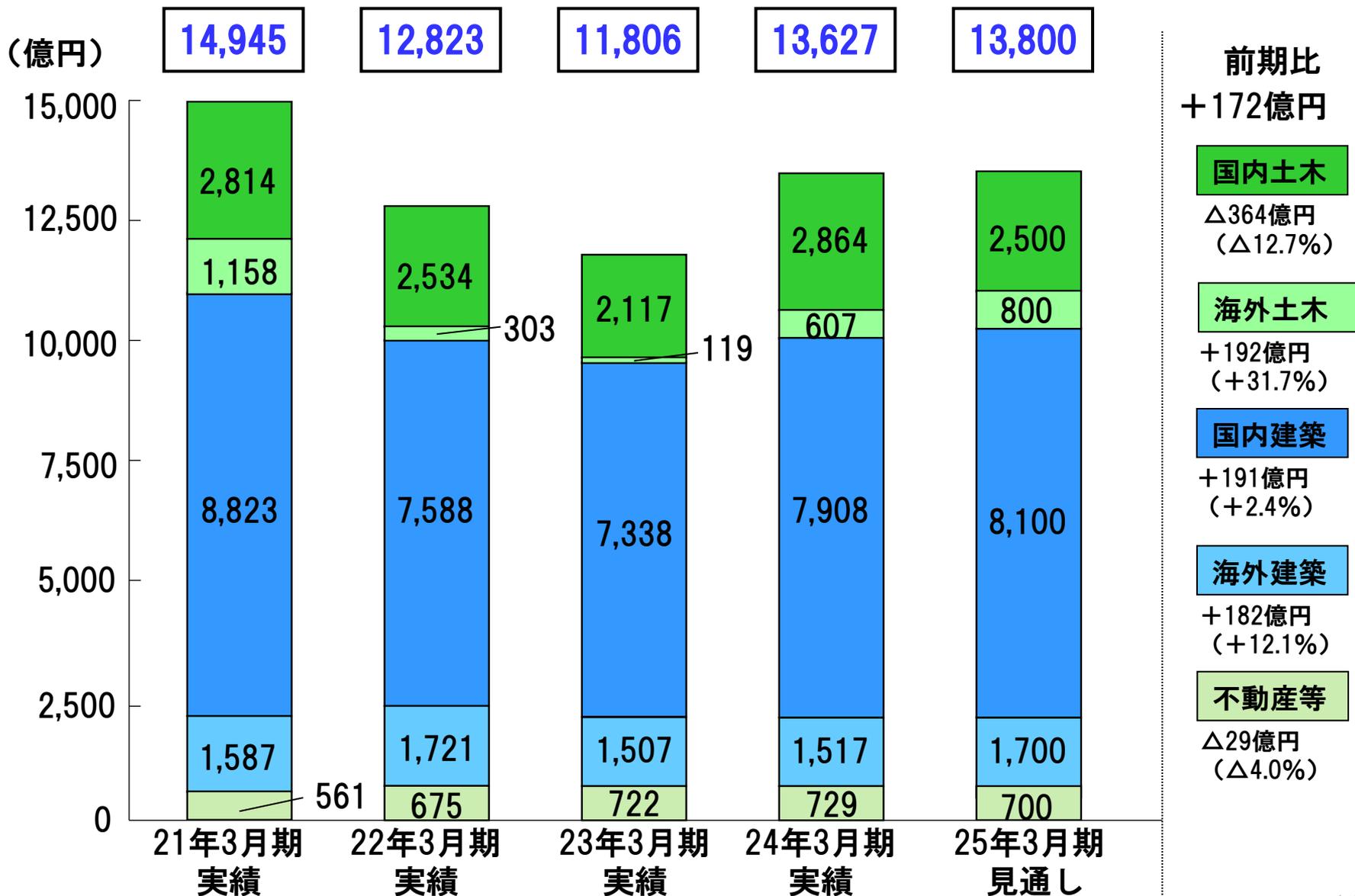
【連結】 当期純利益の見通し



【単体】通期受注高の見通し



【連結】通期受注高の見通し

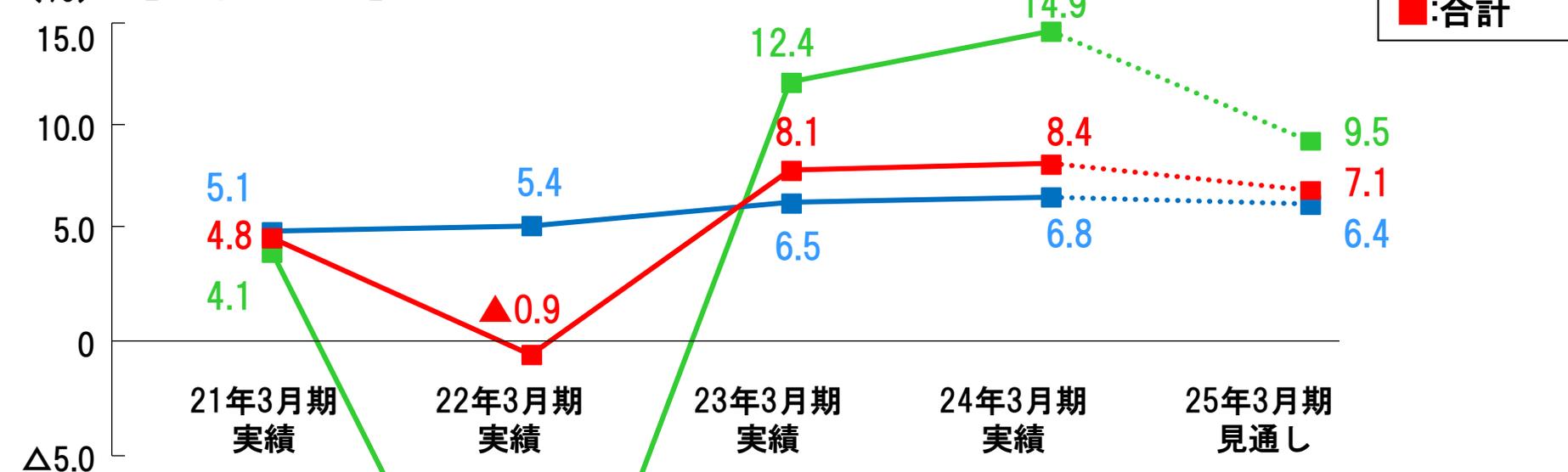


【単体】完成工事総利益の推移

(億円) 【完成工事総利益の額】



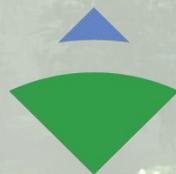
(%) 【工事利益率】



大林組グループ中期経営計画 '12

2012年度～2014年度

「地球に優しい」リーディングカンパニー



OBAYASHI

大林組グループ中期経営計画 '12

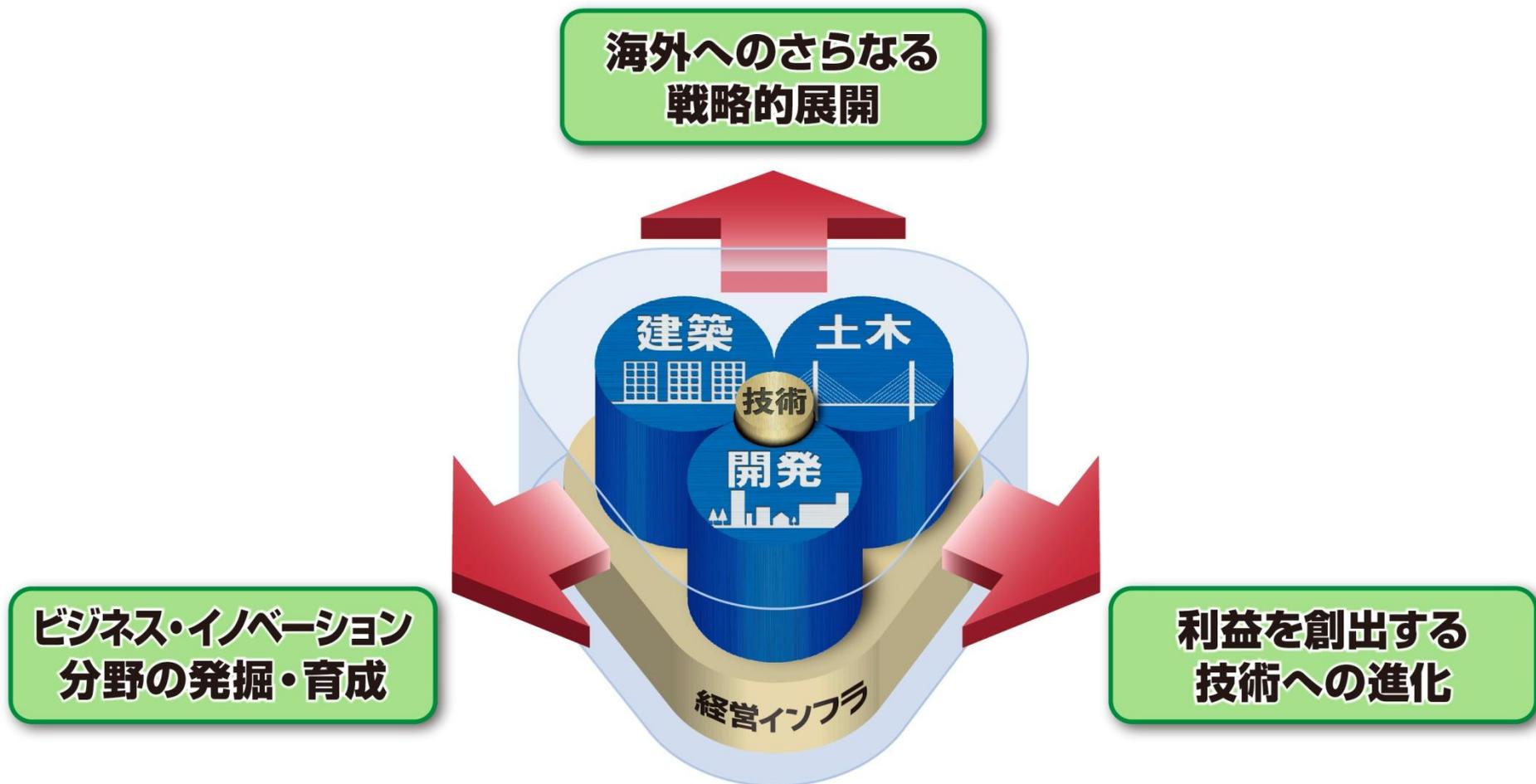
我が国経済は、財政再建問題、欧州金融危機の影響、経済成長戦略の構築に加え、東日本大震災からの復興など困難な課題が山積しています。

また、建設産業においては、国内市場の低迷、製造業を中心とした設備投資の海外シフトなど、かつて経験したことのない事業環境の変化に直面しています。

こうした状況下、当社グループが建設産業において確固たる地位を持続していくためには、新たな事業領域への進出も含めた成長戦略のスピーディーで確実な実践が不可欠です。

この度大林組は、創業121年目をスタートするにあたり、新たに「中期経営計画 '12」（3ヵ年計画）を策定しました。

大林組グループ中期経営計画 '12



基幹分野のさらなる成長に加え、収益基盤の多様化を推進し
グループとしての収益力を高めます

建築、土木、開発の基幹分野の安定的収益力を確保することはもとより、中長期的視野で収益基盤の多様化を実現するため、

■ **海外へのさらなる戦略的展開**

■ **ビジネス・イノベーション分野の発掘・育成**

■ **利益を創出する技術への進化**

を推進します

数値計画(連結)

	2011年度実績	2014年度計画 (3年後)	中長期的展望
総売上高	12,457億円	15,000億円	建設事業売上高 <p>構成比 海外 25 30% 国内 75 70%</p> <p>2014年度 →</p>
建設事業売上高	11,701億円	14,000億円	
国内	86%	80%	
海外	14%	20%	
開発事業等	756億円	900億円	
新規事業	—	100億円	300億円以上
営業利益 (利益率)	311億円 (2.5%)	450億円 (3.0%)	営業利益 <p>構成比 国内建設以外 50% 国内建設 50%</p> <p>2014年度 →</p>
国内建設 国内建設以外 (海外建設、開発、新規事業)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> (66%) (34%) </div> ※2009年度を除く2007 ~2011年度の4年平均	(60%) (40%)	

2014年度 経営指標計画(連結)

経営指標	計画値
総売上高	15,000億円
営業利益(営業利益率)	450億円(3.0%)
経常利益(経常利益率)	470億円(3.1%)
有利子負債	3,600億円以下
D/Eレシオ	0.9倍以下
株主資本利益率【ROE】	8.0%以上
配当性向	20~30%

2012～2014年度 投資計画

投資内容		2012～2014年度	計画年度平均
工事機械、事業用施設		150億円	50億円
技術開発・ICT投資		400億円	133億円
不動産投資	賃貸事業	600億円	200億円
	販売・分譲事業	150億円	50億円
計		750億円	250億円
国内外新規事業投資		200億円	67億円
合計		1,500億円	500億円

建築

- **首都圏の受注シェアアップに向けた営業体制の強化**

土木

- **防災、減災を含む安全・安心のための社会インフラ整備への取組み強化**

開発

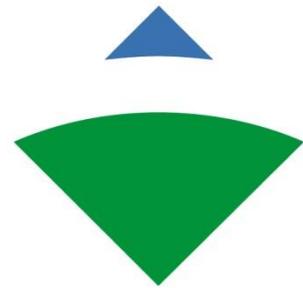
- **賃貸事業(ストックビジネス)を主とする安定的収益基盤の拡充**

海外へのさらなる戦略的展開

- **アジア・北米に中東を加えた3統括拠点体制**
- **オセアニアへの展開**

ビジネス・イノベーション 利益を創出する技術

- **エンジニアリング・エネルギー分野への取組み強化**
- **規制緩和や制度変更に伴い創出される事業機会に技術を核に参入**



OBAYASHI